

日本胸部外科女性医師の会 (WTS in Japan)

第10回日本胸部外科女性医師の会を終えて

2015年10月19日、第68回日本胸部外科学会定期学術集会会場である神戸ポートピアホテル内にて、朝食会形式で第10回胸部外科女性医師の会 (Women in Thoracic Surgery in Japan, WTS) 集会が開催されました。今回は前原 正明先生 (元防衛医科大学校外科学講座 主任教授、現蒲田リハビリテーション病院 院長) を講師としてお迎えし、胸部外科領域におけるNP/PA制度の導入についてご講演いただきました。わが国の外科領域において2007年に日本外科学会・日本胸部外科学会などが連合して外科医の労働環境改善のための委員会が発足し、NP/PA制度導入を含めた外科医の処遇改善について厚労省に向けて働きかけが続けられてきた経緯や今後の課題や新たなチーム医療体制導入との関連などにつき

詳細にわたるお話を開きました。また、臨床現場最前線で活躍される女性胸部外科医師4名 (広島市立安佐市民病院心臓血管外科 荒川 三輪先生、埼玉県済生会栗橋病院呼吸器外科 松本 卓子先生、東京女子医科大学心臓血管外科 立石 実先生、京都府立医科大学付属病院心臓血管外科 山崎 祥子先生) の先生方にご発表いただきました。各先生方のキャリアパス紹介や、胸部外科領域における女性医師の役割・現状、キャリア継続の状況や成功に向けての重要な鍵 (包括的な制度面のサポート、医局、家族親類、勤務先病院における制度やシステムの整備) についてのお考えにつきご発表を頂きました。女性のキャリアパスには様々なパターンが考えられ、特に胸部外科領域においては「女性」という通念で



ひとつくりにして語りきれない複雑な面が存在するため、個々の性格や能力・環境に合わせたキャリアパスを見極めていく必要性がありそうだとのご発言もいただきました。今回は胸部外科学会大会長・大北裕先生をはじめ呼吸器外科・心臓血管外科領域の指導者的立場におられる先生方にも多数ご参加頂き、活発な意見交換・討論が繰り広げられました。今回は総勢25名 (世話人2名を含む) と多くの方にご参加頂きました。過去のWTS集会では講演会・質疑応答+食事を基本

的な形態としてご参加いただいた先生方が交流を深める機会を提供できればとの思いで会を開催してまいりましたが、今回はあえて多くの先生方にご発表頂き討論を意識した集会創りを目指しました。時代の流れも手伝いようやく中立的な男女共同参画の考え方が芽生えてきた昨今、気兼ね無くより一層積極的な意見交換の場として多くの方にご参加頂き会話や議論を楽しんでいただけるような会作りを目指して今後も邁進していきたいと考えております。